

やっほー

やまびこネットワーク情報誌 VOL.64

発行日 平成23年3月11日

編集 地域づくりネットワーク長野県協議会

事務局(長野県総務部市町村課地域振興係内)

電話 026-232-0111(内線 2127)

FAX 026-232-2557

E-Mail s-shinko@pref.nagano.lg.jp

URL <http://zuku.umic.hp/yonet/>

早いもので、平成23年も3月に入りました。県北部を中心にまだまだ降雪の日がつづく一方で、県南部では梅をはじめとする草花の芽吹きがきかれる季節となってきました。下旬には桜前線の北上も本格化することでしょう。長野県の広さを改めて実感しつつ、各地で計画されている春の様々なイベント・行事等に数多く足を運んでみたいなあと思う今日この頃です。

さて、今年度最後の発行となる本号では、上小、木曾、松本、北信の各支部から支部活動紹介・会員活動紹介を寄稿いただいておりますので、どうぞご覧ください。また、地域づくり団体活動支援事業の新年度事業の募集が始まっています。各団体の皆様におかれましては積極的な活用をご検討ください。

○地域づくり団体活動支援事業の平成23年度事業の募集が始まりました！

平成23年度の地域づくり団体活動支援事業の交付要綱等が示されましたのでお知らせいたします。(詳細は、同封の通知及び(財)地域活性化センターホームページの地域づくり団体全国協議会のページ <http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/dantai/dantai.htm> をご覧ください)

○今年度との変更点

1. 「地域づくり活動支援事業」(広報誌及びホームページの作成やレベルアップ、その他団体の運営等に関しアドバイザーの指導・助言を受ける事業)は廃止。
2. 新規登録後2か月間は助成申請ができない規定を廃止。
3. 申請時に直近1年間の活動内容を報告してもらい、助成の可否を決定。
4. 研修会の内容や成果を幅広く周知・公表していく方針とすることから、講師選定の際にはその旨承諾を得ておくこと。

上記の変更を踏まえ、今年度とは様式の一部が変更されていますのでご注意ください。

○県内で今年度ご活用いただいた団体及び事業概要

団体名	事業名	区分	概要
地域づくりネットワーク 長野県協議会	やまびこフォーラム 2010 in 木曾	講師等派遣事業	「食と農が地域をつくる」講演会 (やっほー63号で既報)
発達障害児・者及び家族支 援の会シーズ	「発達障害支援を語る」フ ォーラム	講師等派遣事業	発達障害の理解を深めるための講演 会(同61号で既報)
さわそこ里山資源を活用 する会	「福寿草の里信州沢底」ホ ームページ開設支援	地域づくり活動 支援事業	情報発信のツールとして活用するた めのホームページ作成の講習会
(財)妻籠を愛する会	第35回妻籠冬期大学講座	講師等派遣事業	「町並み保存と景観法について」の講 演会(詳細は本号で)

本事業は、宝くじ(サマージャンボ)の収益金を財源としていることから、昨年4~5月に実施された国の事業仕分け(第2弾)の影響により、平成23年度の事業実施についてこれまで保留となっていました。3月15日(火)に開催される「地域づくり団体全国協議会役員会及び総会」の場で予算規模等も含め正式決定される見込みです。事業採択されれば、講師等の派遣に最大20万円(上限:謝金10万円、旅費10万円)の助成が受けられますので、お気軽にご相談ください。

上小支部発 ～上小支部の活動を報告します～

地域づくりネットワーク上小地区協議会 会長 竹内 充

平成23年2月5日（土）上田市塩田公民館のホールにおいて「おいだれ！ここで暮らさずっ！地域づくり実験室」を開催しました。このイベントは、支部活動として実施しましたが、会員以外の方や講師なども含め36名の参加がありました。

1 トークセッション-知ってた？上田でこんなことやってるって。-

今回は、参加者となるべく近い関係で、そして、もっと気軽に聞いて貰いたいという想いから、司会者とお話をする人がお互いに会話する形式で進むトークセッションを選びました。

トークセッションでは、「crew 上田未来創造派」を立ち上げ、昨年5月と12月に政治家と若者をつなぐ「政治家 meets ヤングマン」を開催した、直井保彦さん。平成21年から自然エネルギー講座などを企画し、昨年12月に上田市丸子文化会館小ホールで1日450人が来場した「ミツバチの羽音と地球の回転」上映会を実施した藤川まゆみさん。平成19年度に第1回目の元気づくり大賞の4つのうちの1つに選ばれ、上田市内を中心に毎月10,000部を発行しているフリーペーパー「うえだNavi」の編集長池松勇樹さん。以上の3名にお越しいただき、司会者を交えながら、それぞれの活動の話と上田地域に住んでいてその良さや伝えたいことなどを伺いました。



2 <カフェ気分で活性化しよう！>-ワールドカフェ-



お茶やお菓子などを用意し、なるべくリラックスした中で行なう手法のワールドカフェ。今回は、ワールドカフェを試してみたいという想いと、自分たちの住む地域について対話しながら意見交換をしたいと考えたためにその手法を取り入れました。

当日は、コーヒーやお茶、クッキーなどを用意し、静かな音楽を流しながら「おいだれ！ここで暮らさずっ！あなたが住む地域の10年後を思い浮かべてください」というテーマで会話を行ないました。会話を行なう時には、テーブルにクラフト紙を用意し、水性ペンで気づいたことや浮かんできたことを書いてもらいました。まとめはポストイットを使って、ワールドカフェで出てきた意見の中で一番印象に残ったことと、10年後を想像したときに自分がやりたいことを書いてもらい全体で共有を行ないました。

3 おわりに

今回トークセッションやワールドカフェを取り入れたことで、とても有意義な支部活動になったのではと考えています。今後も今回のような手法を用いながら、若者が気軽に参加しやすいまちづくりを模索して行きたいと思えます。

木曾支部発 ～木曾支部の活動を報告します～

○支部事業「地域づくり活動事例発表会」開催

平成 22 年 11 月 27 日（水）、木曾合同庁舎 401・402 号会議室において、午前 10 時からおよそ 2 時間にわたり、平成 22 年度「地域発 元気づくり支援金」木曾地域事例発表会が開かれました。発表会は、平成 21 年度の支援金事業の中で特に優れた事業の表彰や優良事例の発表が行われるもので、特徴的な地域づくり活動を行っている団体の取組事例に学び、他の団体などとの交流や情報交換を通じて地域づくり活動への理解を一層深める好機として、支部事業に位置付けて開催したものです。

会場は、支部の会員をはじめ 60 人近い聴衆で埋め尽くされ、熱気が漂う中で 7 つの団体から活動事例が発表されました。

このうち、知事表彰を受賞し、後に「地域発元気づくり大賞」にも選ばれた「王滝村森林鉄道保存事業」を実施した森林鉄道フェスティバル実行委員会（王滝村）からは、住民や鉄道愛好家らのボランティアが森林鉄道の軌道の保存・復元事業に取り組んできた経過や、第 1 期工事として総延長 832 メートルに及ぶ敷設が完了した節目として行われた「王滝森林鉄道フェスティバル 2010」の活況などが報告されました。

このほか、地域住民らの協働で妻籠宿や中山道沿線の環境整備に取り組んできた（財）妻籠を愛する会（南木曾町）の活動や、木曾の各地でアイスクャンドイルイベントを開催し、木曾の一体感の醸成に努めた木曾路氷雪の灯祭り実行委員会（木曾町）の取組などが紹介され、参加者は各団体の発表に熱心に聞き入っていました。



稲垣康支部長は、「この事例発表会を通じて、地域づくり活動に取り組む方々が何かヒントをつかみ、参加者相互の理解や交流が深まり、活動が一層活発になることを期待したい」と話しています。

○第 35 回妻籠冬期大学講座「町並み保存と景観法について」開催

平成 23 年 2 月 6 日（日）、南木曾町公民館妻籠分館において、第 35 回妻籠冬期大学講座（主催：（財）妻籠を愛する会）が開催されました。

支部の会員である妻籠を愛する会は、歴史的な町並みの保存に対する意識が低かった昭和 40 年代初頭からいち早く町並み保存に取り組み、住民主体による保存活動の嚆矢として今日まで活動を続けています。

「妻籠冬期大学講座」は、宿場の歴史を後世に伝え、保存活動の重要性を再認識するために、昭和 52 年に第 1 回が開催されました。以来 34 年、1 回も欠かさずことなく毎年開催されつづけ、今年で 35 回目を数えます。



今回の講座は、地域づくり団体全国協議会の助成を受け、元文化庁文化財鑑査官で国立小山工業高等専門学校長の苅谷勇雅先生を講師に招き、「妻籠 43 年、京都 39 年、文化庁 36 年」と題してご講演いただきました。講演の中で苅谷先生は、日本の文化財保護制度を振り返り、妻籠で町並み保存事業が始まって 43 年、京都市が市街地景観条例を制定して 39 年、文化庁が伝統的建造物群保存地区制度を創設して 36 年になることに触れ、妻籠での活動が日本の町並み保存の本格的な始まりと評価。景観を保全する上で住民が認識を共有することの重要性に言及し、景観保全で苦勞した他の地域の事例に学ぶべきだと助言されました。妻籠宿が第 1 号に指定された国の重要伝統的建造物群保存地区も今日までに 88 か所を数え、妻籠宿の今後のあり方について、「妻籠の魅力を問い直し、保存活動に若い人の力と外部の知恵を採り入れるべき」と力説。住民の自助努力もさることながら、行政の積極的な支援の必要性を説かれました。

講座は住民ら約 80 人が受講。中には遠く東京から駆けつけた女性の姿もあり、このテーマに対する関心の高さをうかがわせました。

松本支部発 ～松本支部の活動を報告します～

地域づくりネットワーク長野県協議会松本支部からは、「支部交流会」の様子を紹介します。

○支部交流会

1月26日（水）安曇野市のビレッジ安曇野において、地域づくりネットワーク会員と平成21年度元気づくり支援金事業で優良事例となった、安曇野堀金「れんげの里」プロジェクトチーム、Azumino. 光のページェント実行委員会に参加いただき、会員と元気づくり支援金活用事業者との交流会を開催しました。



まず、参加会員の皆さんから、団体の設立経緯、活動内容、取り組みで苦労されている点などを報告していただきました。会員の皆さんからは「活動を実施するには、周りとのネットワークづくりが重要」、「活動を継続していくには、後継者を育てていくことが必要」、「自団体に合わせた事業の展開を図っていく」などの意見が出されるなど、有意義な意見交換となりました。

引き続き、平成21年度の元気づくり支援金事業で優良事例となった、安曇野市の地域住民や地元高校生などが協働し、遊休農地をかつて安曇野の春の風物詩「レンゲ田」に復活させ、新たな観光名所を創出した安曇野堀金「れんげの里」づくりプロジェクトチームと、安曇野市民ボランティアが主体となりアイデアを出し合いながらイルミネーションの装飾をすることにより、世代間交流を行い、あわせて近隣のイルミネーションと

連携して地域の活性化を図ったAzumino. 光のページェント実行委員会にそれぞれの活動内容、今年度の状況、今後の取り組みなどを発表していただきました。



交流会終了後は、今年度で3回目となる、「2010 Azumino. 光のページェント」を見学しました。ビレッジ安曇野内の2haの広場に約10万個の電球を飾り付けて、11月20日から1月31日まで点灯とのことでした。

実行委員会の山崎さんは、「設置に当たって苦労が多かったり、維持管理が大変だったが、お年寄りから子どもまで地域住民に喜ばれ、リピーターも多く、観覧者から『感動した、来年も楽しみにしています』など心温まるご感想が寄せられ、来年度への励みになる」と話しておられました。



今年度、初めて元気づくり支援金事業者との交流会を開催しましたが、来年度も、会員の意見を伺いながらより有意義な事業を展開していきたいと考えております。

北信支部発 ～北信支部の活動を報告します～

北信支部からは、過疎が進む中で住民自ら持続可能な地域を目指して奮闘を続ける「北原区ふるさと暮らし支援委員会（委員長：小林栄一さん）」の活動を紹介します。

持続可能な地域を目指して コミュニティビジネスから都市との交流まで

北原区ふるさと暮らし支援委員会

【準限界集落と01（ゼロイチ）運動】

飯山市北原区は、戸数31戸、そして50歳以上の人口の比率が50%を超えて、今後の集落の維持機能が危惧される「準限界集落」です。このような中で将来の集落のあり方を住民自らが考え、その実現に向けて地域計画を作成、実行する集落自治＝「01運動（0から1、無から有へ）」を進めています。その中心的役割を果たしているのが区民9名で組織する「北原区ふるさと暮らし支援委員会」です。

それでは現在進めている事業をご紹介します。

【くるみによるコミュニティビジネス】

持続可能な集落を目指すには、今後の戸数の減少による歳入不足をどのように補うかが課題です。そこで、平成20年に荒廃地を活用して1本1万円のくるみの木のオーナーを募集、県内外から37本のオーナーが集まりました。現在は区所有のくるみの木を合わせて50本となり、今後その販売収入が区に入る予定です。

【大切な命と健康を地域で守ろう】

地域住民はお互いが助け合って生きています。ですから人の命は本人にも地域にも大切なものです。そこで「大切な命と健康を地域で守ろう」というプロジェクトを立ち上げ、次の3事業を始めました。

○「命を守る新聞箱」の設置（平成21年～）

ひとり暮らしのお年寄りの安否確認のため、新聞が外から見えるように蓋の無い新聞箱を作成して全戸に配布しました。新聞がもしお昼まであったら、隣近所で一声かけようというものです。



命を守る新聞箱

○マレットゴルフのコースを整備（平成21年～）

区民の協働作業でマレットゴルフのコース18ホールを整備しました。道具も区で用意して、区民の交流・健康増進に役立てています。

○「北原ふるさと写真館」（平成21年～）

区民全員で年1回集合写真を撮影し、その写真を全戸に配布します。住民同士が身近に感じ新しい交流も始まりました。また、お互いの顔を知ることによって災害時には大切な命も救えます。

【移住プロジェクトの推進】

持続可能な集落にするためには、人口の維持が不可欠です。そこで、今後予想される人口の減少を補うために、都市からの移住の受入と都市住民との交流を推進しています。

○「北原ふるさと暮らし学校」の開校（平成21年～）

都市住民を対象に北原区を活動エリアにした田舎体験を行う宿泊プランを公民館を拠点に実施しています。定員は10名ですが、リピーターも出てきています。

○東京の企業と連携協定（平成23年～）

東京のIT企業(株)アジルコアと北原区が相互支援の協定を結び、公民館を保養所として研修や福利厚生事業を行ったり、区のお祭りなどの行事に参加してもらったりすることになりました。



北原ふるさと写真館

今後も「おらっほの田舎で暮らしてみませんか」を合い言葉に、「住んでよし、訪れてよし」の地域づくりを進めていきます。詳しくは「北原区ふるさと暮らし支援委員会」ホームページをご覧ください。

連絡先：北原区ふるさと暮らし支援委員会事務局 出澤俊明

E-mail: furusato_kitahara@yahoo.co.jp

URL: http://www.geocities.jp/furusato_kitahara/